

農業継承の条件整備とJAの役割

常陸農業協同組合 代表理事組合長 秋山 豊

■ 常陸農業協同組合



JA常陸の概要

JA常陸は茨城県北部11市町村を管轄する北関東最大規模の農業協同組合です。

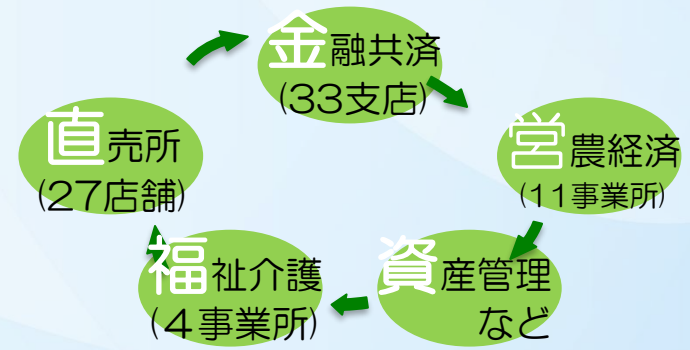
太平洋に面する沿岸地区から久慈・八溝山地、また都市部から山間地まで幅広い地域を要し、その地域特性を活かした農業を展開しています。

主な農産物に米、そば、奥久慈なす、栗、さつまいも、畜産、花き・枝物等があげられ、それらを加工・販売する6次産業化にも力を入れています。



事業内容

JA常陸は、各種事業を営む総合事業の展開により地域の人々の食・農・暮らしをサポートしています





事業の概要

● 貯金残高	327,101百万円
● 貸出金	66,363百万円
● 貯貸率	20.3%
● 長期共済保有高	849,608百万円
● 購買品供給高	6,661百万円
うち生産資材	4,938百万円
うち生活物資	1,672百万円
● 販売品販売高	8,862百万円
うち 米	2,333百万円
野菜	546百万円
畜産	2,172百万円



JA常陸の概要

- 名称 常陸農業協同組合
- 代表者名 秋山 豊
- 本店所在地 茨城県常陸太田市山下町3889番地
- 組合員数 52,939人（令和2年1月31日現在）
正組合員 31,792人，准組合員 21,147人
- 役員数 55人
常勤理事 5人，非常勤理事 40人
常勤監事 1人，非常勤監事 7人
- 職員数 1,315人
- 経営理念 農を通じて、真の豊かさ、真の生きがいを
地域の人々とともに創出します。



JA常陸ロゴデザイン
「JA常陸」のローマ字頭文字「H」をモチーフに、5JAの合併「5つの実り」を表現。「H」をとりまく輪は、5JAの「絆」をイメージしました。



JA常陸では「地元だいすき」のスローガンのもと提携店制度をはじめとする地場循環・地域活性のための活動を実施しています。

趣旨

JA常陸において、近年拡大してきた枝物部会は約100名のうち700万円以上売り上げる農家は5%、大半の会員は300万円以下の売り上げである。我々は規模が大きい農家に注目が行くが、現実には「年金プラス枝物」の呼びかけで参加した退職後農家がどれだけ増反し苗を植えられるかが勝負となる。

ポイントは販売単価であり、コロナ過でも枝物の市況は決して悪くはないが、全農家が増反するまでには高くはない。対策の一つとして、耕作放棄地をJAの受託子会社が借り上げ、2～3年を出荷期になるまで育成し、利用権と成長した株を新規参入する組合員に譲渡する方法がある。

つまり信用事業等により経営力・投資力のあるJAが一定期間生産を代替し、新規参入者を確保するまで農業生産を行う事が必要である。

これまでのJAは、生産は組合員がやる事として、自ら生産することを控えてきた傾向が強かった。しかし現実には、JAが総力を動員しても地域農業の担い手を確保する必要がある。

JA常陸管内の経営継承の事例

1. 枝物部会による耕作放棄地解消・担い手確保の取り組み

- 耕作放棄地解消の取組みの特徴

- ◎ 枝物栽培に特化

- ◎ 地域の協力体制確立（人と人とのつながり）

- ◎ 担い手受け入れ体制（部会員の協力）

- 耕作放棄地、遊休農地（予備軍）解消を目指す枝物栽培

- 平成21年茨城県耕作放棄地対策モデル地区に指定

- 平成29年農地中間管理機構の制度を活用

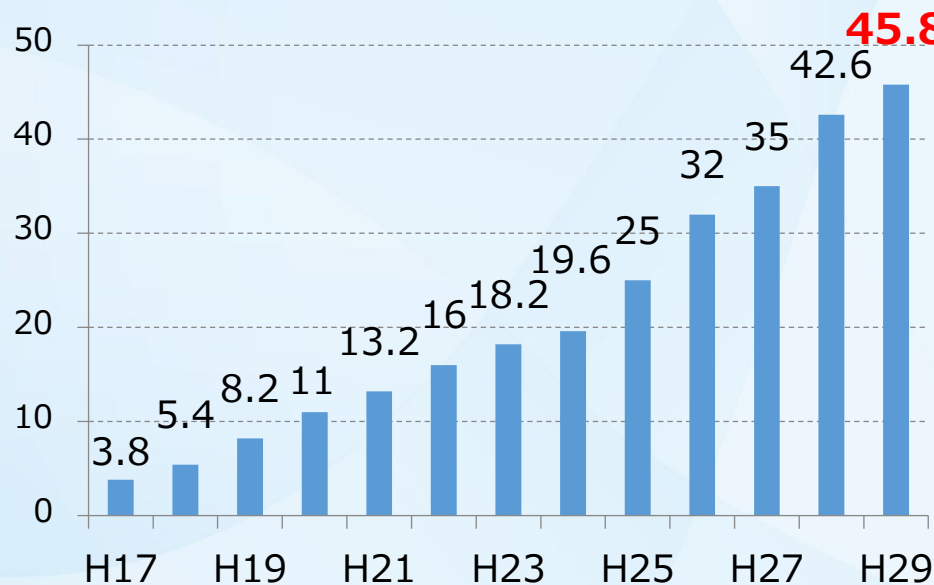
J A 常陸大宮地区枝物部会について

部会設立：平成17年11月（部会員9名、3.8 h a）

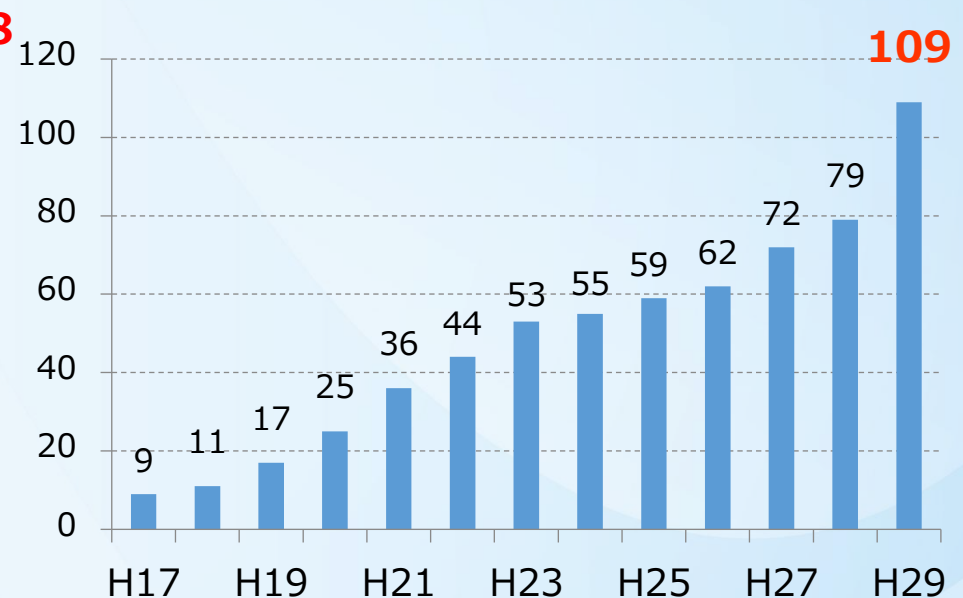
部会員数：109名（約2/3が兼業農家）

栽培面積：45.8 h a

栽培面積 (ha)



部会員数 (人)



部会設立：平成17年11月（部会員9名、3.8 h a）

部会員数：109名（約2/3が兼業農家）栽培面積：45.8 h a

JＡ常陸奥久慈枝物部会 作業受託等・樹木継承に関する申し合わせ

1. 目的

JＡ常陸奥久慈枝物部会がこれまでに培ってきた産地ブランドと販売力・信頼を継続するため、安定的な枝物出荷の体制を整える。併せて新規作付け者の増加を促進する。

2. 役割

作業受委託の契約は、両者の話し合いによって行い、代金決済も両者間で行う。

3. 基準代金

作業受委託及び、樹木継承についての代金の目安は以下の通りとする。実際には、両者間の話し合いのうえ決定するものとする。

(1) 作業を頼みたい<受委託>

ア.草刈りや農薬散布などの作業受託を委託したい場合

委託作業	料 金
草刈り(30aまで)燃料費込み	〇〇〇〇円
農薬散布(30aまで)燃料費込み	〇〇〇〇円

(2) 樹木を譲りたい<継承>

ア.樹木を継承する場合、元の持ち主に対し以下のとおり支払う

樹の条件	料 金
定食したばかりの出荷0円の樹	苗木代の〇〇%
既に出荷実績のある樹	前年売上額の〇〇%

耕作放棄地を耕作地へ

◎ 部会員が協力して、一斉に草刈りを実施

クズの蔓で覆われた土地



竹が生い茂った土地



伐根作業



ロータリー耕うん



堆肥散布



マルチ張り



ハナモモ苗木定植



耕作放棄地が解消され枝物が栽培されている様子



担い手確保育成の取り組み



新規栽培希望者のほ場見学
栽培品目選定指導



部会員のベテラン農家が新
規就農者を受け入れ

枝物部会における新規就農者

氏名	年齢	経営開始	現在の経営	労働力	補助金
柳田 雄介	44歳	平成29年	4 ha	妻	旧青年就農給付金 年間150万
長山 哲也	34歳	平成27年	3 ha	母・姉	旧青年就農給付金 年間150万
松田 幹朗	44歳	令和3年	2 ha	本人	農業次世代人材投資資金 令和4年度より

老後の年金にプラスアルファの収入と耕作放棄地への対策として花紙の栽培を始めたことがきっかけとなり組織されたJA常陸大宮地区枝物部会。近年は部会員数の増加や栽培面積の拡大で取引量も増え、枝物を主収入源として生活をおくっている。

常陸大宮市市長で枝物を栽培する長山哲也さん（31）もその一人。枝物を栽培する産地の紹介で枝物に出会い、一畑の産物のように毎日収穫したり、栽培管理に追われたりせず、自分のライフスタイルに合わせて栽培できるのが魅力的だった」と話す。3年前に会社を退職し、現

「農業ライフ」けん引

長山哲也さん（31）

JA常陸大宮地区枝物部会



収穫作業に追われる長山さん

在は花紙や紙などをメインにおこなう副業を2、3ヵ年で栽培する。

今はまだ会社員時代の収入に頼っているが、退職後すぐに植栽し始めた花紙が今年から本物出荷できることもあり、さるなる収入源を伸ばす。長山さん

人は「自分が育てた枝物が消費されるまでもらえらる」というモチベーションにもつながっている。副業は法人化して地元にも雇用創出し、枝物で地域を活性化させていきたい」と抱負を語る。

（取材）

枝物で地域に活気

放棄地の解消 所得確保 若手が專業就農続々

茨城・JA常陸



中山町は近年各地で耕作放棄地が増え、若手就農者が減少している。JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。

JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。

JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。

地場小

JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。



JA常陸大宮地区の若手就農者

あす月見秋お届け
JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。JA常陸大宮地区は、若手就農者を支援し、耕作放棄地の解消を図っている。

2.子会社（株）アグリサポートの取り組み

株式会社 JA常陸アグリサポート概要（令和3年1月31日現在）

設 立：平成14年7月29日 資本金：99,700,000円

所在地：本社・大宮営業所 常陸大宮市東野3218-2

金砂郷営業所、水府・里美営業所、太田営業所、大子・山方営業所
ひたちなか営業所、笠間営業所、高萩営業所

役 員：取締役会長（秋山豊） 代表取締役社長（鈴木秀行） 取締役専務（椎名誠一）
取締役6名 監査役2名

社 員：社員26名 臨時社員15名 パート社員10名 JA出向職員3名 外国人技能実習生3名

施 設：ライスセンター27施設 カントリーエレベーター1施設 種子センター1施設
育苗センター（水稲）21施設 製茶加工所1施設

経 営：水田（187.2ha） 畑地（50.1ha） 合計（237.3ha）

作 物：主食用米（25.8ha） 飼料用米（87.2ha） 稲WCS（9.7ha） 採種用米（8.4ha）
麦（70.5ha） 玄そば（64.4ha） 玄そば採種（1.7ha） デントコーン（8.9ha）
ねぎ（1.0ha） 甘藷（7.7ha） 人参（1.8ha） なす（0.2ha） ブルーベリー（0.8ha）

畑地帯総合整備事業（担い手育成型）

茨城県常陸大宮市に位置し、平坦で比較的排水性の良い土壤に広がる畑地帯。排水性の良い土地条件をいかし、タバコなどの作物を中心に営農を展開してきましたが農家の高齢化が進み生産が減少しています。那珂川沿岸農業水利事業の受益地で令和2年度末に完成した畑地事業（区画整理・かんがい施設）を契機に農業法人等の農地集積・集約化により子会社（株）アグリサポートが受益者となった。

- 受益面積：33ha
- 受益者数：101名
- 担い手数：令和3年度
 - ・ アグリサポート（14ha）
 - ・ レインボーフューチャー（5ha）
 - ・ 早川重男（1ha）いちご
 - ・ 田口 薫（50a）なす
 - ・ 彦田真吾（2ha）いちご

※令和4年にJA常陸で
有機栽培展示圃を計画

